

# 測量実習 講義資料 4 (確認測量)

## 1 確認の要領

- ある班は ABC の測点, もう一方の班は DEF の測点を測量し, 全測点の座標が計算されたものとする.
- 測点 G の設置
  - 各班とも 2 つの測点 (A, C, D, E) から見通せる測点 G を設置
  - 測点 G は, 測点 (A, C, D, E) から 2m 以上離れた所に設置すること
  - 測点 G にポールを設置する (TA が担当)
- 測点 G の測量
  - 2 つの測点から測れる全ての測線を使って測点 G を視準し測角
  - 例えば点 A においては,  $\angle CAG$  と  $\angle BAG$
  - $\angle BAC$  は三角測量で得られた最確値を用いるので測らなくて良い
  - $\angle CAG$  は, 平均によって測角誤差を調整
- 測点 G の座標計算
  - 2 つの測点座標を用いて, 測点 G の座標を計算
  - ある班は測線 AC, もう一方の班は測線 DE の座標より計算
- 座標計算結果の確認
  - 両班において測点 G の座標誤差が 3cm 未満かどうかチェック
  - 3cm を越える場合は, 計算を見直し, 場合によっては再測量
  - 誤差のチェックは, 班の代表者一人の計算結果が良い
  - 一方の班の作業が遅れている場合は, 協力して作業を進めること
  - 測点 G は, 次回水準測量におけるベンチマークとして利用するので, 撤去しないでそのままにすること

